



平成
20
年度

10
月

学校だより

京都市立桃陽総合支援学校

心を一つに、学習発表会

本校小学部

学習発表会に向けて、小学部は、演目を劇「わがままな王様」と和太鼓「ぶちあわせ太鼓」に決めた。九月の初旬から練習を始めた。

劇「わがままな王様」の配役は希望を優先しましたがどうしても決まらない役がありました。話し合いをして六年生がその役（王様役）をとってくれ、無事決めることができました。子ども達は大きな声でゆっくりとせりふを言うことや動き方に目標を持って練習しました。練習を重ねるたびに上達し、自分の役に入り込んでいきました。一生懸命にせりふを工夫して言っているみんなの顔は素敵でした。衣装も楽しんで作りました。

「ぶちあわせ太鼓」は総合の時間に学校支援ボランティアの村田先生を

お迎えし、春から少しずつ練習をしてきました。しかし、リズムがなかなか覚えられなくて、苦労しました。それぞれの学級で「毎日一回は練習しよう。」と励ましながら覚えてるようにしました。みんなの呼吸をあわせ、力強い演奏を目指しています。



劇や太鼓の発表を通して、みんなで一つのことを創り上げるよい経験ができました。

伝統文化に学ぶ

本校中学部

中学部では総合的な学習の時間に外部から講師の先生をお迎えして「伝統文化―茶道、華道、和太鼓」に取り組んでいます。わが国に古くから伝わる伝統文化について専門の先生から教えていただくことでその豊かさや奥深さを感じとってくればと願っています。また日常とは違った空間にわが身を置くことにより静かに自己と向き合うことができると考えています。

茶道

茶道では、お点前の一つ一つの動作を丁寧に行うことによって、礼儀正しい立ち居振舞いや、お道具の扱い方、物を大切にすることを学んでいます。静かな和室で湯の沸く音

を聴きながら互いにお茶を点で、一服いただく心がとても癒されます。

華道

華道では、「花を生ける」
「生かす」という精神を大切にして取り組んでいます。花々と対峙し、それぞれの花の特徴を見ながら、毎回自分でテーマを決めて構成を考えていきます。生け終わると生けた花について互いに発表し、最後に自分の花を愛情込めてスケッチします。とても穏やかな時間を過ごすことができます。

和太鼓

和太鼓では、ひじを伸ばし腰を落として基本の正しいかまえ方を大切にして練習しています。締め太鼓のリズムに合わせ呼吸を整え、全身のエネルギーをぶつけて演奏します。みんなの音が一つになると力強い響きを奏でます。心も身体もとてもリフレッシュします。

学習発表会に向けて

訪問教育

朝夕めっきり涼しくなり秋らしい季節になってきました。ただいま小学部四人、中学部五人の訪問教育です。

訪問教育では、学習発表会での出し物の発表に



向けて、病院や自宅でなかなか作りなどの取り組みをしてきましたが、今回は当日人形を動かすのに参加できる皆さんがいるので、私たち教員だけで練習をしています。当日みんなの声と作品で上げた成果をみなさんにお届けしたいと思っています。お楽しみに。

【美術や家庭科で作品を仕上げていく中学生二人】

手芸の得意なIさんは家庭科で「こどものおもちや」として、ぬいぐる



みづくりをしています。手芸ブックとにらめっこして作りたい作品を選び、型紙で切り取ることから始め、裁断して縫っていきます。縫うのが大好きなIさんのこと、あつというまに病室でも仕上げて『かっぱ』や『羊』を完成させました。病棟の詰め所に飾られ、人気者です。

美術の好きなKさんはマージングに挑戦。点滴治療中ですが、意欲満々に模様づくりを楽しみました。模様の写った紙で封筒づくりをしたなら十枚ほどできたので、周

りの大好きな人たちにプ



レゼントしようと考えています。うちわも作りました。ハンカチ染めも予想以上のできばえにびっくり。すばらしいできばえに学習意欲も高まってきました。

こんな風に好きなことで新しいことに挑戦するとすてきなことがいっぱい待っているということはいずれいいことですね。

共に力を合わせて

府立医大分教室

街路樹の銀杏の葉が、心なしか黄色に染まり初



めてきたように見えます。府立医大から見える東山や北山が紅葉で色づく日が楽しみです。

授業が再開されてから、一ヶ月以上たちました。学習発表会に向けて、小学部・中学部が一つの目標に向かって取り組みを進めています。四季を表す風景に合った「折り紙」をみんなで作くり、「春夏秋冬」として一つの作品に仕上げ、十月四日（土）学習発表会当日、本校で掲示し、参加者の皆さんに見てもらうことになっています。

その他にも、中学部では九月十一日に「クッキーづくり」をしました。バターと砂糖を泡立て器で手早く上手に混ぜ、白

っぽくふんわりと仕上げ、その中に卵と小麦粉を入れました。少しねかしてから、ベッドサイドの人に、型抜きをしてもらい

ました。その後こんがりと焼き上がったココアクッキーなどをベッドサイ

ドに届けました。みんなとても嬉しそうで、同室の看護師さんや小さな子ども達にもプレゼントし、一緒に味わうことができました。

小学部では、音楽の時間に、木琴・鉄琴・ピアノ・リコーダー・電子ピアノ・タンバリンなどを使って「ゆかいな木きん」「茶色の小びん」などの合奏練習をしています。体育では、ルールを考えながら、卓球バレーの試合を楽しんでいます。

新たな出会い

国立病院分教室

このように、みんなでも取り組める活動が子ども達にとって一番嬉しいようです。

今後、共に力を合わせた、助け合ったりする活動を取り入れていきたいと思っています。

九月に入って一人新しい仲間が加わり、現在、中三男子一名、女子一名の計二名です。入院生活の長いN君のことも気にかけてくれるやさしい生徒です。また、受診の時に、分教室に立ち寄り、体調や地域校のことなどを話し、気持ちを切り替えて帰る生徒も何名かいました。先日、H君が、テスト一週間前一人でやって来て「歩ける姿」を見せてくれました。

T君は、受診の結果服薬が、二錠にりました。退院してから、外来治

療で経過を見ながら、自分である程度の制約を守りながら生活していくことになりました。また、体調に合わせて登校している生徒もいます。皆、それぞれN君から何かしら感じ取ってくれる生徒が多いです。

Rさんは、治療が順調で元気な表情を見せてくれることが多く、学習も自分のペースで少しずつ頑張っています。本人の願いは退院して中三最後の文化祭で吹奏楽にでることです。課題四曲の他に、N君の知っているビリーブをクラリネットで短時間練習しています。音楽の時間に一度練習しただけで自分でやってくれています。

練習の初めに笛のような「ピーイ、ピーイ」と音の調整が聴こえるのですが、N君は嫌がらず黙って聴いていました。好きな人には、気持ちもコントロール出来る時もあるのです。Rさんは、N君に良く声をかけてくれま

みんなで・ワクワク・楽しい活動

京大病院分教室

した。外泊許可が出るようになり、地域の学校のご理解もあり、クラブ練習に参加してきました。退院も近いかもしれないけど、プラス試行で中三を乗り越えて欲しいと願っています。そんな出会いも大切にしたいと思っています。

秋の掲示板

台風一過、朝夕気持ちの良い季節になりました。夏休みが終わってからは、毎日子どもたちの元気な声が教室に飛び交って、にぎやかに学習や活動をしています。

月夜にたぬきが楽しそうに踊っています。学習の中で、たぬきの手や足をそれぞれに組み合わせたり顔を描いたり、ひとり一人表情のちがうたぬき

学習発表会に向けて

学習発表会に向けて子どもたちが、思い思いに「夢の部屋」を作っています。初め「どんな部屋にするか考えてみよう。」と声を掛けたときは、「ええ・・・、思いつかへん！どうしよう・・・。」といった子どもたちも設計図を作っていないが作り始めてみると、中学生はタンスや机の引き出しまで工夫をきつちりと仕上げて、パソコンや液晶テレビを部屋に置いたり、



ができ上がりました。



小学生は、紙粘土やぬのを使ってかわいい椅子やソファを作ったり・・・。それぞれ「〇〇ちゃんらしい部屋」のできあがりです。入学後間もない人もみんなの制作に合わせ、「京大ハイツ」のコーヒーションップやエントランス作りに参加してくれてみんなの総力を挙げて



「京大ハイツ」を仕上げました。ペットションップは保護者の協力を得て充実しています。皆さんお楽しみに・・・。

おいしかったよ！

これは、ワクワク活動で「ホットケーキ」を作っている所です。小・中合同で、それぞれ、役

割を決めてホットケーキ作りをしました。温度調節が難しくなかなか焼けなかったり、少し焦げてしまったりしましたが、どの子も、メープルシロップやチョコ、いちごジャムをつけておいしそうに食べていました。久しぶりの調理でみんな嬉しそうでした。

自分見つけ

学校長 尾崎 泰敏

暑さがようやく、やわらいできました。これから季節的には過ごしやすい時期を迎えます。学習や健康づくりにも絶好の季節です。目標を決めて毎日を過ごしてほしいものです。

先日知人を介して「私の世界」という本を著者のお母さんからいただきました。著者は理学博士号を取られた数学者です。

宗本智幸さんといいます。宗本博士は一九七八年生まれです。二十九歳、デュシヤンヌ型筋ジストロフィーという難病患者さんです。筋ジストロフィーは筋肉細胞が壊れていく病気で進行と共に運動ができなくなり、最終的には呼吸に関する筋肉や内臓を動かす筋肉も弱っていくという病気です。残念ながら完全な治療法はまだできていません。

そんな病気の宗本博士が書かれた自分史のようなものなのですが、その中で一番印象に残ったことは次のようなことです。宗本博士は学生時代に数学の面白さを知りました。病気のために級友と同じようにできない中でみんなと同じように、いやそれ以上にできる数学に惹かれていったようです。（数学は頭の中だけでできますから。）クラスの友達からも宗本は数学が得意なんだという事で認められる事になりました。つまりクラスでの存

在感ができたわけですね。その時からさらに数学の勉強にのめり込んでいかれたようです。

教育の中で「自尊心」ということがよくいわれます。「自己肯定感」ともいわれます。分りにくい感情ですが具体的に分かる例だなあと感じました。

幼児、少年時代は自分見付けの時代でもありません。自分は何が得意なのか。何が好きなのか。何がやりたいのか。それは青年期まで続くこともあります。（ほとんどの人がそうですが）自分見付けは、行動し、学習しなければできません。学校はそんな「自分見付け」の題材をたくさん用意している所だとも考えています。

自分見付けができると子どももおとなも輝いてきます。桃陽総合支援学校を去る時には、子どもたちが輝いている事を願っています。